

台風 13号に関する市民等の声

市長公室 広報戦略課

1 趣旨

今後の施策の検討、推進に当たり参考とするため、各部や「台風13号に関する相談窓口」に寄せられた市民等の声を整理した。

2 聴取方法

- (1) 職員が、被災家屋調査、被災現場の確認、災害ごみの仮置場・戸別回収、消毒液の配布、災害ボランティア活動等において聴取した。
- (2) 各部や台風13号に関する相談窓口において聴取した（電話を含む。）。
- (3) 一般の災害ボランティアに寄せられた声を保健福祉部が聴取した。

3 概要

次ページ以降に記載

- (1) 避難所開設、救出・救護、(2) 市の問合せ対応、広報等、(3) 災害ごみ、土砂等の撤去、(4) 災害ボランティア、(5) 被災者支援制度、(6) これまでの治水対策等、(7) 今後の対策、(8) その他

市民等の声（主なもの）

(1) 避難所開設、救出・救護に関すること



- ① 避難所開設や避難行動要支援者への避難の呼び掛けのタイミングが遅い。
- ② 避難行動要支援者名簿に登録していたが、どこからも何の連絡もなかった。
- ③ 道路渋滞により職員が避難所に到着できず、開設が大幅に遅れた。
近くの自主防災組織に開設を任せてもらえないか。
- ④ 滑川小、日高小は水浸しになった。避難所に適しているか検討が必要。
- ⑤ 団地内の集会所や平沢中の避難所化を提案してきたが、実現していない。
- ⑥ 119番通報がつながりにくく、消防隊到着までが遅い。

(2) 市の問合せ対応、広報等に関すること



- ① 本庁舎の停電により、電話がつながりにくかった。
- ② 電話が回されるたびに、各部署の職員から、繰り返し同じ説明をされた。
- ③ チラシ「台風13号による豪雨災害に係る支援制度」の配布が遅い。
- ④ 総合相談窓口は、もっと早く設置すべきであった。
- ⑤ 災害ボランティアの派遣、土砂等を回収してもらえることについて、早く知らせてほしかった。
- ⑥ 市に道路の冠水や床下浸水への対応を連絡したが、何もしてくれなかった。
- ⑦ 市公式ホームページに、窓口業務の停止、図書貸出しの停止、道路の通行止め等の情報がなかった（来庁者や図書館利用者から苦情あり）。

(3) 災害ごみ、土砂等の撤去に関すること

- ① 災害ごみの仮置場が自宅から遠く、搬入の手段もない。
可燃ごみの集積所等に出せるようにしてほしい。
- ② 災害ごみの仮置場の設置期間が短い。
片付けには相当の時間を要し、一度に排出できる量にも限りがある。
- ③ 河川や側溝等に流れ込んだ災害ごみ、土砂、流木を早く撤去してほしい。
- ④ 道路や駐車場に堆積した土砂が乾燥し、砂ぼこりが舞っている。
どうにかしてほしい。
- ⑤ 土のうや土のう袋を配布してほしい。配達もしてほしい。



(4) 災害ボランティアに関すること



- ① 災害ボランティアの派遣を要請したが、すぐに対応してもらえなかった。
- ② 災害ボランティアの作業時間が短く、中途半端な状態で帰ってしまった。
- ③ 店舗や事業所についても、災害ボランティアの派遣対象としてほしい。
- ④ 道路や農地の土砂、流木等の撤去作業についても、災害ボランティアの派遣対象としてほしい。
- ⑤ 市の相談窓口で、災害ボランティア派遣の申込みを受けてほしい。

(5) 被災者支援制度に関すること（その1）



- ① 泥のかき出し等に大量の水を使用したため、水道料金を減免してほしい。
- ② 民有地の崖崩れ、土砂の撤去等についても、市で対応してほしい。
- ③ ブロック塀の修繕、水没した車両の買換え・修理、水につかった家具・家電品の買換えについても、支援してほしい。
- ④ 事業所やアパートの大家が行う土砂の撤去、修繕等に対する支援が必要。
- ⑤ 農地や農機具の復旧は、小規模であっても市や国・県が行うべきである。

(5) 被災者支援制度に関すること（その2）

- ⑥ 市営住宅への一時避難は、使用期間（3か月間）が短い。家具や家電品を備え付けてほしい。
- ⑦ 小さな子がいる家庭は、自力での消毒が困難であり、市で行ってほしい。
- ⑧ り災証明の半壊未済についても、固定資産税の減免を制度化すべきである。
- ⑨ り災証明の申請に必要な写真を撮らずに掃除をしてしまい、困っている。



(6) これまでの治水対策等に関すること

- ① 市役所敷地内の川の溢水について、予想を超える雨量があることを考慮し、防ぐことができなかったのか。
- ② 油川、折笠川の河口付近の床上・床下浸水は、防潮堤の水門を開放しなかったことが原因ではないか。
- ③ 田尻川や鮎川の水害の危険性について、以前から市や県に伝えていたが、何の対応もなかった。
- ④ 十王里美線の新設により、小石川からあふれた水がせき止められ、床上浸水となった
- ⑤ 河川や用水路の氾濫は、清掃が行き届かず、流れが悪いのが原因である。
- ⑥ 道路整備により自宅前の道路の地盤が高くなった。今回は浸水に至らなかったが、元の高さに戻してほしい。



(7) 今後の対策に関すること

- ① 庁舎や河川については、全国で最も多い雨量を参考に検討すべきである。
- ② ハザードマップは、久慈川、茂宮川、十王川に加えて、市が管理する河川の情報も公開すべきである。今回の被害状況も反映させて公開すべきである。
- ③ ハザードエリア内は、降雨強度の想定を毎時100mmに変更し、排水溝の改修等を検討してはどうか。
- ④ 浸水地域や冠水しやすい道路等を把握できたので、対策に生かしてほしい。
- ⑤ 交流センターの避難訓練の見直しを行ってはどうか。
- ⑥ 市職員の人事異動で防災対策課の職員が頻繁に入れ替わる。職員の知識が不足し、専門家もいない。
- ⑦ 防災行政無線がよく聞き取れない。デジタル化できないのか。

(8) その他

- ① 市は、庁舎の浸水や市が管理する河川の氾濫などについて、市民からのたくさんの問合せを内部で共有し、反映される仕組みができているのか。
- ② 浸水した空き家が倒壊しないか不安である。
- ③ 災害発生後のイベントの開催（よかっぺまつり等）及び中止（ひたち秋まつり等）に対する苦情あり。

以上